



# 神奈鍼会報

第 163 号

平成 31 年 3 月 27 日発行

発行人 一般社団法人 神奈川県鍼灸マッサージ師会 会長 伊勢山 竹 雄 編集者 太田 修 二

〒231-0065 神奈川県横浜市中区宮川町 2-55 ルリエ横浜宮川町 304

TEL.045-242-7790 FAX.045-242-7791 E-mail : kanasin@apricot.ocn.ne.jp



## ふじさわ ボッチャ競技会



3月10日に藤沢市秋葉台体育館にて、ふじさわボッチャ競技大会が開催されました。藤沢市よりご依頼を頂き、鍼マッサージブースを開設致しました。

当日は、神奈川県内数か所で、ボッチャ競技大会や体験会が催されておりましたが、藤沢会場へ大勢の方がご参加頂き、パラリンピック競技ボッチャの認識度やオリンピック・パラリンピックへの期待の大きさを実感させて頂きました。



藤沢市はりきゅう・マッサージ師会の先生方中心に15名で選手の方はもちろんですが、行政関係者やボッチャ競技のスタッフの方々70名の方に施術を体験して頂くことが出来ました。倉塚会長を始め、ご参加頂きました先生方のご尽力のお陰で、「是非、来年度も

ご協力頂きたい」と終了直後、行政担当者からご挨拶に来て頂きました。本当にありがとうございました。感謝申し上げます。



はりの経験をしていただく事を推進し、多くの方に初めてご経験頂き、とても良い傾向と感じました。

また、ボッチャ競技は、脳性麻痺、四肢麻痺の方など、パラリンピックでも障がいが一番



## ふじさわボッチャ競技会

重い方々が対象の競技です。今大会では、他にもダウン症の方々も参加しておられゲームを楽しんでおられたのも印象的でした。ダウン症の親子は、お子様の希望で、「肩がこるし、投げるのが疲れたから、マッサージを受けたい」とお越し頂き、施術を受けて頂き、喜んで頂いた姿にスタッフから歓喜の声が上がり、いい雰囲気になりました。



やはりマッサージブースは、多くの方に感謝され、大変嬉しくもあり、普段関われない方々への施術は、本当に勉強させて頂けると感謝の思いでいっぱいです。



太田修二先生には、盛会により急遽ベッド数の増加や障がい者の方のおむつ替えの場を提供して頂くなど、様々な面で迅速に対応して頂きましたお陰で、主催者からも大変高評価を頂戴致しました。やはり、大会は、地元の先生方が中心となり、如何に行政との関係づくりや主催者側の意向に副い、



信頼を得ることの大事さを教えて頂いた大会となりました。

藤沢市はオリンピック・パラリンピックの開催会場です。一つ一つできることを真心こめて丁寧に行い、更なる信頼構築を目指したいと思いました。

報告 榎本 恭子



## 鎌倉逗葉鍼灸マッサージ師会 学術講習会報告

3月3日（日）13:30より玉縄学習センターにて、埼玉医科大学東洋医学科より山口智先生をお招きして学術講習会を開催いたしました。あいにくの雨模様でしたが、34人もの方がご参加くださいました。今回のテーマは「耳鳴り・難聴・めまいに対する鍼灸手技療法 ～頸部・顔面部からの刺激が内耳の循環に及ぼす影響～」でした。

耳鳴り、難聴、めまいは、いずれも日常の臨床の中で必要となってくる知識・技術です。病院、診療所でなかなか有効な手立てがなく、鍼灸へ救いの手を求めてくることが多いのが特徴だと山口先生もおっしゃっていました。参加された方は、山口先生の講義、実技を集中してご覧になっていらっしゃいました。きっと、これからのお仕事にお役立ていただけることと思います。

報告 鎌倉逗葉師会学術委員 林 秀卓

## 第32回尊徳マラソン大会に参加して



3月にしては少し肌寒く曇天ですが、絶好のコンディションに恵まれました。去年と同じく風も弱くランナーには、走りやすかったみたいです。

今年も神奈鍼傘下師会（6師会）の会員は勿論、東京東洋師会や神鍼会の先生の協力のもと、18名の先生と2名の学生で、はり、マッサージのボランティアを行いました。毎年、楽しみにしているランナーもたくさんいますが、大会初参加のランナーの皆様にも大変に喜んでいただきました。円皮鍼（パイオネックスZERO）132名、コンディショニング132名、計264名に施術ができました。



今回は参加される先生方が少ない中、去年を上回る人数ができました。また、鍼の認知度が上がったのか途中で鍼の在庫を切らす等のうれしいハプニングもありました。ご参加の先生方本当にお疲れ様でした。心より感謝いたします。

報告 小田原鍼灸マッサージ師会  
荒川 隆

# 第34回大山登山マラソン

## 鍼マッサージコーナー活動報告

朝日山 一男

3月10日（日）第34回大山登山マラソン大会において、伊勢原小学校グラウンドで鍼マッサージコーナーを開設しました。

前日9日（土）18時より、嘗てのオリンピックや国際大会に参加した選手の方々（弘山晴美、赤羽有紀子、片岡純子、岡本治子、岸川朱里、村上康則）の歓迎会がアマダのフォーラム246で開催されました。地元のスポンサーの方々や体育協会関係者など100人以上の参加があり、相模原師会米田会長と朝日山も参加し、ゲストランナーと共にテーブルを囲み、懇親を深めました。その中で、ゲストの方にスポーツ指導を行って頂き、私達がケア指導を行えば、新たな企画をコラボできるなど建設的な話ことができました。ゲストランナーからは地域の子供の指導に役立てたいとパイオネックス貼付のパンフレットもご参考にお持ちいただく事もできました。

大会当日は、主催者の参入にご尽力いただいている小林先生の計らいで、昨日歓迎会に参加できなかった、タレントの永井大さんへのマッサージやゲストランナーへの走行前のパイオネックス貼付などを行いました。

ランナーへの施術は、伊勢原師会に加え県下の他師会、東京都師会、米田会長の従業員などのメンバー30名で対応しました。走行前のパイオネックス施術は110名、走行後のマッサージ施術は68名の方に行いました。この大会を企画運営して頂いている体育協会のご尽力で大変好意的に受け入れて頂いていることに感謝し、御礼を申し上げます。





## 災害支援活動報告

# 西日本豪雨 呉 仮設住宅における被災者支援活動報告

朝日山 一男  
榎本 恭子

2月24日（日）愛媛県西予市野村町の仮設住宅つつじ団地集会場と広島県呉市の天応仮設団地集会場との2班に分け支援活動を行った。

愛媛のつつじ団地へは、宇佐美徹朗先生夫妻、松尾正美先生、菊池聰先生にご協力を賜り、9名の施術を行った。当日、日本財団からの現地調査があり、災害支援活動をご報告申し上げた。また、被災者の方は、この地区は過去5回の被害があったこと、今回の対応の件について人災ではという複雑な気持ちが伺えた。

広島为天応仮設住宅は神奈鍼から、広瀬徹先生夫妻、佐藤博由先生、京崎洋二先生、臼井明宏先生、朝日山一男、榎本恭子、東京都師会2名、広島県師会山田健三先生、福岡県師会矢津田善仁先生の11名が参加した。

呉での活動の為、広島駅8時に集合し、現地へ向かったが、活動開始の10時までに時間の余裕があったので、小屋浦の被災現場に向かった。12月に伺った時より、町の景観は大きな変化はなく、川に面した家は、無残に柱だけになっている家などはそのままだった。



呉の被災現場

しかし、大きく変化したことは、町に人が戻っていることだった。それは、住むためではなく、片付けや今後の事を考えるためではあるが、被災現場に人が戻っている。

その方々にお声掛けをすると、住民の方から被災直後の状況の話を聞くことができた。

100mほどの間で7人の方が亡くなり、1名はまだ見つかっていないとのこと。腰まで土砂が流れ出し、目の前の巨大な石は100年前の洪水のものとのこと。



100年前の災害の石





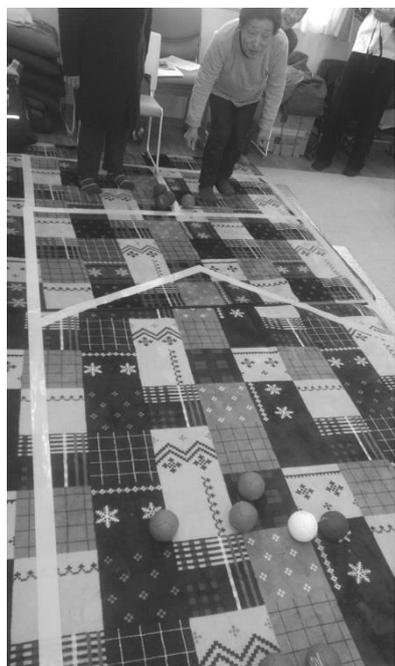
解体が必要な家は沢山あるが、職人さんがいなく片付けられないとのことだった。

呉市の天応仮設団地に赴き、支え合いセンターの方にお会いし、1日の流れを確認後、施術に入った。仮設住宅への訪問施術も行った。3時からサロン活動として、被災者の方5名とハモニカとギターの演奏で合唱した。また、ゼンシン体操やボッチャ体験をして頂き、大変喜ばれた。



サロン活動風景

この地域には、マッサージの支援は発災時からほとんどなかったようだ。今回の支援は、大変ありがたいとのことだった。結果15名の方々の施術を行ない5時に終了した。



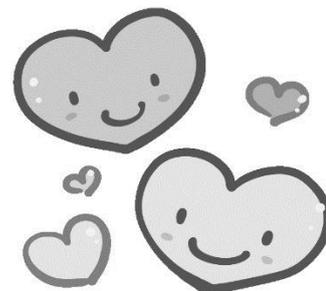
仮設でボッチャ体験をしました

地元の山田先生は「是非また来たい、協力してほしい」とのことから、次回も訪れるよう手配した。

翌日、朝日山と榎本で、呉の被災現場を視察した。一見してどこで起こったのかわからない状態であったが、地元の方に案内して頂くと、土砂で無残に流された家の跡や墓石や灯籠の流された状態、まだ一階が崩れたままの家もあった。

ここでも、住民の方からお話を聞くことができた。道は川になり、大きな石が転がり、大木が突っ込んで倒れてきたり、大変だった様子を話していただいた。ここでもお亡くなりになられた方がおられた。自然は人間の想像を超えて襲い掛かってくる様子が目前で伺えた。とても複雑な気持ちになるが被災された方が自ら現地に様子を伺うために戻って来ていること。

地元の方々が、当時の事をしっかり伝えてくれること。井戸端会議を行っている様子や仲良し四人組で楽しくお散歩をしている様子を伺うと、少し心の復興が進んだとも感じると共に継続し、見守り続けること。出来ることをさせて頂く事の大切さを学んだ大変意義ある活動であった。まだまだ、復興には支援が必要です。一人でも多く被災地に赴いて頂ければと思う。



被災地はあなたの手を必要としています







